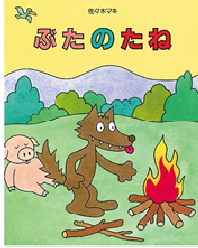


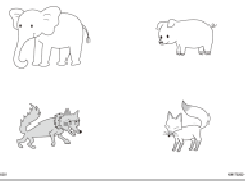
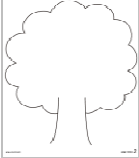
3歳児クラス 2月 第2回 「ぶたのたね」

保…保育士 講…講師 ★…保育士が準備する教材

シアタータイム

読み方	<ul style="list-style-type: none"> 「ドスドスン」「ユッサユッサ」「ポトンポトン」など、動物たちの動きを表現する場面は、声の強弱をつけて読む。 オオカミとキツネ博士の会話の場面は、声色をそれぞれ変えて読み、ストーリーをより理解できるよう工夫する。 	教材	
	<ul style="list-style-type: none"> 保：オオカミのペーパーサートを持って登場。声色を変えながら「一度でいいからぶたの丸焼きを食べてみたいんだ」「もう少しで食べられそうなんだ」と講師と会話。 講：お話に興味を持ってからお話を始める。 	<ul style="list-style-type: none"> ★絵本 ★iPad(シアターセット) ペーパーサート(オオカミ) 	
導入		保育士の役割	<ul style="list-style-type: none"> ペーパーサート持って登場。講師と会話。

がくしゅうタイム

活動①	記憶	お話を思い出して、自信を持って正しいものに○ができる。	
設問	先生のお話を聞いて、合う絵に指示された色のクレヨンで○をしましょう。		
活動内容	講：「いつもは怖いオオカミ。ブタさん食べられちゃうのはかわいそうだけど、ちょっとお気の毒なオオカミさんだね」	保：「今日は博士からクイズが届いてますよ」とプリントの入った封筒提示。	教材
	<ul style="list-style-type: none"> 講：「今日のクイズは何かなー？」とプリント提示。「クイズチャレンジしたい人」と例のごとく意欲を引出す。 保：プリント、クレヨン配布。 講：プリントの中の絵を一つ一つ確認してから問題に入る。 問題 ①ブタを食べようとしたけれど食べられなかったのはだれですか。黄緑のクレヨンで○をしましょう。(答え：オオカミ) ②薬をつくってくれたのはだれですか。紫のクレヨンで○をしましょう。(答え：キツネ) ③オオカミが育てて木になったのは何でしたか。水色のクレヨンで○をしましょう。(答え：ブタ) ※クレヨンの色は、この時期に認識が弱いと思われる色を選んで課題にしました。(クラスの状態をみて変更可) 子：講師の出題を一問一問良く聞き、間違えても後で直せば良いことを理解して、自信を持って○をする。 講：答え合わせでは正解にスタンプや花丸等で賞賛することはもちろんですが、自信を持って○ができたことへも賞賛の言葉をかけ、間違えたら○をし直せば良いことを伝える。この時期自分で考えることに自信を持たせていくことが大切。 ※プリントを1枚めくり<活動②>へと進む。 	<ul style="list-style-type: none"> 保：プリント、クレヨン配布。 	<ul style="list-style-type: none"> P1 クレヨン
活動②	描く	自分が欲しい木をイメージして描くことができる	
設問	好きなものなる「木」を描きましょう。		
活動内容	講：「おおかみさんはぶたのなる木を育てたけど。もし、この木が好きなものなる木だったらどうする？」と問いかけてみる。	保：「今日は自分の欲しいもの、好きなものなる<木>を描いてみようか」	教材
	<ul style="list-style-type: none"> ※「好きなもの」は現実には木にならないものでかまわない。なかなか出ない場合は「〇〇先生だったら何がいい?」「先生だったらね…」と見本に描いても良い。「え!そんなものも?」と微笑みたくなるものなどイメージが広がることばを掛けながら進行し子どもの活動へと進める。 		<ul style="list-style-type: none"> 保育士の役割 <ul style="list-style-type: none"> 子どもと一緒にイメージを広げ欲

<ul style="list-style-type: none"> 子：自由な発想で描いていく。 講保：子どもが描いているあいだ子どもにインタビュー。描いているものを聞いて回り、ト書きに記入していくと良い。 講：頃合いを見て終了の合図。皆の絵を見せっこ（余裕があれば発表会）して賞賛。「きつねの博士にあったらお願いしてみようか」と期待を持たせてプリントを回収し終了する。 	<p>しいものを考える</p> <ul style="list-style-type: none"> 描いているものをインタビューして回る 賞賛 プリント回収
---	--

数	数	教材
設問	おはじきを「5こ」にしてくまの口に入れることができる お皿の中のおはじきを「5個」にしてお腹空かせたおともだちにあげましょう。	クマ袋 おはじき 皿
活動内容	<ul style="list-style-type: none"> 12月から繰り返してきたチャレンジ課題です。クラスや子どもの状況に合わせて難易度を変化させ、チャレンジしていきましょう。 	保育士の役割 <ul style="list-style-type: none"> おはじき提示 理解できない子のフォロー